

委託業務成果報告書

大学等発スタートアップ創出シンポジウム2025
～地域間の連携強化とグローバル展開に向けて～

1. はじめに

1-①. 本事業の背景・目的・内容

背景

① 平成24年度「大学発新産業創出プログラム（START）」による支援

当プログラムを通じて、大学等発スタートアップの起業前段階から政府資金と民間の事業化ノウハウ等を組み合わせることにより、リスクは高いがポテンシャルの高いシーズに関して、事業戦略・知財戦略を構築し、市場や出口を見据えて事業化を目指す取組への支援を行ってきた。

② 令和3年度「スタートアップ・エコシステム拠点都市支援」

スタートアップ・エコシステム拠点都市において、自治体・産業界と連携し、大学等を中心とした、ギャップファンドや実践的なアントレプレナーシップ教育を含めた起業支援体制の構築へ向けた支援を行ってきた。

③ 令和4年度「スタートアップ育成5か年計画」

当計画の策定により、文部科学省として、大学等発スタートアップ創出支援の抜本的強化に向け、約1,000億円の基金を国立研究開発法人科学技術振興機構に造成し、社会・経済にインパクトを生み、国際展開を含め事業成長するポテンシャルを有する大学等のアカデミアから生まれるスタートアップの創出を質・量ともに充実させること、大学等発スタートアップの継続的な創出を支える人材・知・資金が循環するエコシステムの仕組みを全国に形成することを見据え強化を進めてきた。

※本事業仕様書参照

目的

ヘルスケア、Climate Tech、量子・宇宙関連領域をはじめディープテック系スタートアップは地域を含めた国内各所から生まれており、その成長は国内にとどまるところを知らずグローバルに拡大している。スタートアップの更なる発展を見据え、大学を中心としたスタートアップエコシステムを形成、強化することを目的に、大学等とVC／CVC、金融機関、大学等発スタートアップ、自治体等の相互理解、連携を深めるシンポジウムを開催することで登壇者による多様な切り口のセッションやスタートアップエコシステム形成を目指す地域間のネットワークや大学ごとの海外連携の取り組み、グローバルに活躍するスタートアップの事例を紹介し、ネットワーキングの機会等、今後のご活動に有用な場をご提供する。

内容

① 大学等発スタートアップの創出に関するシンポジウムの実施

② 大学等発スタートアップの創出に関する意見調査

2. シンポジウム実施

2-①. シンポジウム準備・実施

シンポジウム開催に向け、登壇者様との打ち合わせや各種制作物対応等を行い、昨年の改善点に基づき運営を行った。準備・企画部分では改善された点が多く、運営・実行の部分では来場者様のご対応など新たな改善点が見られた。

実施内容

準備・企画

1. 登壇者様との事前打ち合わせ

基調講演、パネルディスカッションⅠ～Ⅲの登壇者様との打ち合わせの実施により、ディスカッションテーマや運営に係るオペレーションの擦り合わせを実施。

2. 制作物

来場者配布用冊子、ポスター、VC/CVCブースパネル、投影資料等各種制作物の制作を実施。

3. 運営オペレーション構築とマニュアル化

昨年度のマニュアルに基づき、今年度の特異事項によるマニュアルの変更を実施。

運営・実行

1. 会場・配信関連設営

受付、クローク、ステージ上の設営、配信関連のカメラ等の機材の設営を実施。

2. リハーサル運営

MC、テクニカル・進行チームを含むリハーサル運営を実施。

3. 本番進行

シンポジウム本番の進行、登壇者様への対応等を実施。

4. 来場者対応

誘導、受付、クローク、懇親会等による来場者対応を実施。

前回の改善～本年度実施後の気づき

準備・企画

1. LP公開

LP公開が昨年と比較して早かったため、参加申し込みの応募者が比較的早く集まった。

2. 集客改善

事前申込264名（昨年246名）来場者210名（昨年172名）であった。昨年比、事前申込107%来場者122%。事前申込者の来場率（約80%）であった。

3. 会場設営

開場～開始までの間、受付人数を増やす事で入場の混乱は緩和された。ネットワーキング会場とVC/CVCブースを同一空間にする事による積極的な意見交換が見られた。

運営・実行

4. 来場者対応

登壇者様と随行者様のストラップを同一にした事による混乱を招いた。リスト外の来訪者についても一部混乱したため受付人員へ細分化した落とし込みを実施する。

5. アンケート用紙

現地参加者から筆記による回答ではなく、オンライン回答を求める声があり、筆記とオンラインの回答方法を作成する。※回答率の向上に寄与できると考える。

2-②. シンポジウム概要

タイトル

大学等発スタートアップ創出シンポジウム2025
～地域間の連携強化とグローバル展開に向けて～

目的

ヘルスケア、Climate Tech、量子・宇宙関連領域をはじめディープテック系スタートアップは地域を含めた国内各所から生まれており、その成長は国内にとどまるところを知らずグローバルに拡大しております。スタートアップの更なる発展を見据え、大学を中心としたスタートアップエコシステムを形成、強化することを目的に、大学等とVC／CVC、金融機関、大学等発スタートアップ、自治体等の相互理解、連携を深めるシンポジウムを開催します。登壇者による多様な切り口のセッションにより、スタートアップエコシステム形成を目指す地域間のネットワークや大学ごとの海外連携の取り組み、グローバルに活躍するスタートアップの事例を紹介し、ネットワーキングの機会等、今後のご活動に有用な場をご提供します。

日程

2025年1月29日(水)13:00-18:30
※受付開始：12:00-

会場

虎ノ門ヒルズフォーラム ホールB
(〒105-6305 東京都港区虎ノ門1-23-3 虎ノ門ヒルズ森タワー4階)

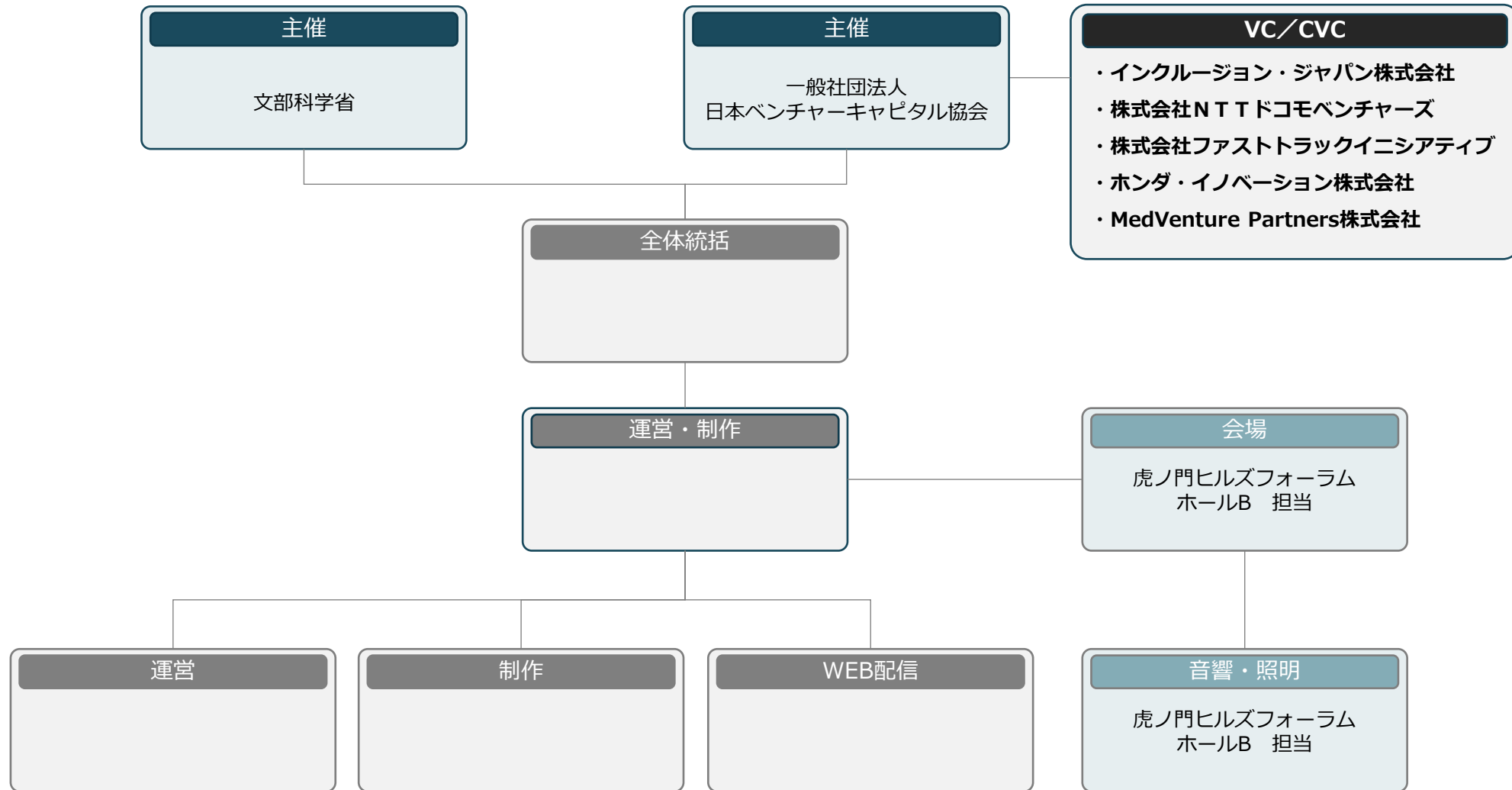
実施形態

ハイブリッド形式（現地開催 & オンライン開催）

来場者

現地参加	最大300名
オンライン参加	最大500名

2-③. シンポジウム運営に係る事項 ～運営体制図～



2-③. シンポジウム運営に係る事項 ～シンポジウムスケジュール～

	全体	文科省様 JVCA様	MC	演出進行	テクニカル					登壇者様	運営 (誘導)	運営 (受付)	
					音響	照明	映像	配信	美術等				
7:00													7:00
:30													:30
8:00	準備・調整			進行MTG	リハーサル準備						オリエンテーション		8:00
:30				MC MTG	バミ						導線確認 サイン設置	受付準備	:30
9:00			調整	テクニカルMTG							会場設営 レイアウト調整		9:00
:30	リハーサル			進行/テクニカルリハーサル+配信チェック									:30
10:00				MCリハーサル+配信チェック									10:00
:30				ステージ転換オリエン							調整	シミュレーション	:30
11:00				調整							ステージ転換オリエン		11:00
:30	誘導準備・誘導開始												:30
12:00	受付	登壇者様 アテンド	客入れ								誘導	受付	12:00
:30										12:40～基調講演 直前打合せ			:30
13:00	①13:00-13:10 開会挨拶 ②13:10-14:00 基調講演～MITとエコシステム全体でイノベーションと起業家精神を促進～ マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院経営学部教授一橋大学イノベーション研究センター客員教授 オリックス株式会社社外取締役マイケル・クスマノ氏 ③14:00-14:30 VC/CVC PITCH インクルージョンジャパン株式会社/株式会社NTTドコモ・ベンチャーズ/ 株式会社ファストトラックイニシアティブ/ホンダイノベーションズ株式会社/MedVenture Partners株式会社 ・休憩(15分間) ④14:45-15:30 パネルディスカッションⅠプラットフォームセッション ～全国のスタートアップ・エコシステムをつなぐ新しい取組～ ⑤15:30-16:15 パネルディスカッションⅡ大学セッション ～海外拠点・海外大学・海外VCとの連携～ ・休憩(15分間) ⑥16:30-17:15 パネルディスカッションⅢスタートアップセッション ～グローバル展開を目指す国内スタートアップの動向～ ⑦17:15-17:20 閉会挨拶												13:00
:30													:30
14:00										14:15～パネルⅠ 直前打合せ	適宜 運営・ステージ転換補佐		14:00
:30													:30
15:00										15:00～パネルⅡ 直前打合せ			15:00
:30													:30
16:00										16:00～パネルⅢ 直前打合せ			16:00
:30													:30
17:00											アンケート回収		17:00
:30	ネットワーキング			ホール内片付け									:30
18:00													18:00
:30	客出し			原状回復・撤収							客出し		:30
19:00													19:00
:30	原状回復・撤収										原状回復・撤収		:30
20:00													20:00
:30													:30
21:00				終了									21:00

2-③．シンポジウム運営に係る事項 ～登壇者一覧No.1～

オープニングスピーチ

池田 一郎

文部科学省 科学技術・学術政策局
産業連携・地域振興課長



2001年 文部科学省入省
2006年 長期在外研究員派遣（米国）
2013年 在フランス日本国大使館一等書記官
2017年 国立研究開発法人物質・材料研究機構
経営戦略室長 兼 秘書室長
2018年 文部科学省研究開発局原子力課
放射性廃棄物企画室長
2019年 内閣府政策統括官
（科学技術・イノベーション政策担当）付企画官
2020年 文部科学省大臣官房総務課企画官
2021年 科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課
地域支援室長
2021年 大臣秘書官事務取扱
2022年 研究開発局宇宙開発利用課宇宙利用推進室長
2023年 科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課長

郷治 友孝

日本ベンチャーキャピタル協会 会長
株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ(UTEC)
代表取締役社長CEO・マネージングパートナー



1996年通商産業省（現経済産業省）入省、我が国ベンチャーキャピタルファンドの根拠法となった「投資事業有限責任組合法」（1998年11月施行）を起草し、文化庁・金融庁を経て、2004年4月UTEC創設にたり退官。以来、UTEC1号から5号までの投資事業有限責任組合（計約850億円）のベンチャーキャピタルファンドの設立・運営、東京大学発をはじめとする大学関連スタートアップへのシード/アーリーからの投資育成戦略、UTECのチームビルディングや国内外の大学・研究機関との関係構築を行ってきた。
投資先企業の中からこれまでに20社がM&A等、20社が株式上場を果たす。近年行った研究では、科学技術に立脚したスタートアップの成功要因をデータサイエンスを用いてモデル化。2022年7月より日本ベンチャーキャピタル協会副会長、2023年7月より同協会会長。
1996年東京大学法学部卒、2003年米国スタンフォード大学経営学修士（MBA）、2020年東京大学博士（工学）。

基調講演

マイケル・クスマノ氏



マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院経営学部教授
一橋大学イノベーション研究センター客員教授
オリックス株式会社社外取締役

Michael A. Cusumano is the SMR Distinguished Professor of Management at the MIT Sloan School of Management and served as Deputy Dean during 2020-2024. He is a member of the Technological Innovation, Entrepreneurship, and Strategic Management Group. He was also a Special Vice President and Dean for Entrepreneurship and Innovation at Tokyo University of Science during 2015-2017. He specializes in strategy, product development, and entrepreneurship in digital platforms, computer software, and Internet services as well as in automobiles and consumer electronics. Professor Cusumano was educated at Princeton University (A.B.) and Harvard University (Ph.D.). He has published 14 books and more than 120 articles, and has consulted for approximately 100 companies around the world. His most recent book is The Business of Platforms (2019, with A. Gawer and D. Yoffie). His prior book, Strategy Rules: Five Timeless Lessons from Bill Gates, Andy Grove, and Steve Jobs (2015, with D. Yoffie), has been translated into 18 languages. He is also a member of the board of directors of Orix Corp.

VC/CVC ピッチ

インクルージョン・ジャパン株式会社

登壇者 代表取締役
服部 結花 氏

株式会社NTTDコモ・ベンチャーズ

登壇者 Investment & Business Development
Director 木村 裕一 氏

株式会社ファストトラックイニシアティブ

登壇者 プリンシパル
木村 敏子 氏

ホンダ・イノベーションズ株式会社

登壇者 リードアソシエイト
紅 曉人 氏

MedVenture Partners株式会社

登壇者 シニアマネージャー
桑木 織葉 氏

2-③．シンポジウム運営に係る事項 ～登壇者一覧No.3～

クロージングスピーチ

山岸 広太郎



日本ベンチャーキャピタル協会 常務理事・産学連携部会長
株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ
代表取締役社長

1999年慶應義塾大学経済学部卒業。日経BP、シーネットネット
ワークスジャパン「CNET Japan」編集長を経て、2004年グリー
株式会社を共同創業。10年間、同社の副社長として事業部門など
を統括。その後副会長を経て、現在、取締役（非常勤）。2015年慶
應義塾大学のベンチャーキャピタルである株式会社慶應イノベ
ーション・イニシアティブの設立と同時に代表取締役社長に就任。
2021年6月現在合計150億円のファンドを運用。慶應をはじめと
する大学の研究成果を活用したベンチャー企業に投資を行っている。
2021年5月より慶應義塾の常任理事（財務、募金、起業家教育・
支援担当）を兼務。

2-④ . シンポジウム結果 ～来場者数～

■ 現地参加者数

単位:人

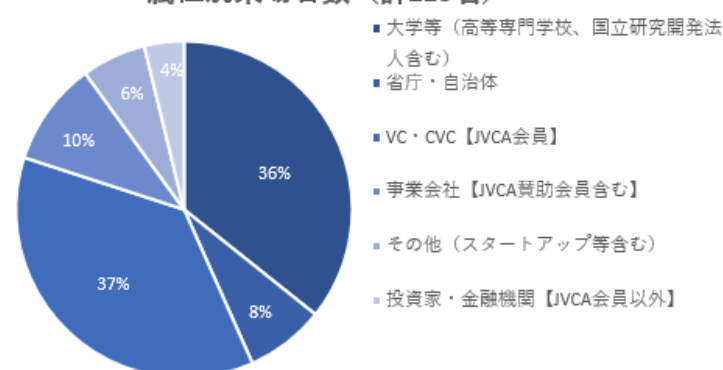
属性	①参加実績数	②事前申込数	参加率 (①÷②)
大学等 (高等専門学校、国立研究開発法人含む)	75	93	80.6%
省庁・自治体	16	16	100.0%
VC・CVC【JVCA会員】	77	106	72.6%
事業会社【JVCA賛助会員含む】	21	21	100.0%
その他 (スタートアップ等含む)	13	21	61.9%
投資家・金融機関【JVCA会員以外】	8	12	66.7%
合計	210	269	78.1%

■ 時間帯別来場者 (受付スタッフによるカウントの為、多少のずれがあるかもしれません。ご了承ください)

単位:人

時間帯	来場者数	来場総数
～13時	134	134
13時～14時	45	179
14時～15時	13	192
15時～16時15分	15	207
16時15分～17時20分	2	209
17時20分～閉会時	1	210

属性別来場者数 (計210名)



2-④ . シンポジウム結果 ～オンライン視聴者数～

■ オンライン参加者数

単位:人

区分	参加実績数
オンライン参加申込者	199
現地参加申込者（当日オンライン）	0
事前登録無し	17
合計	216

■ オンライン参加者数(属性別)

単位:人

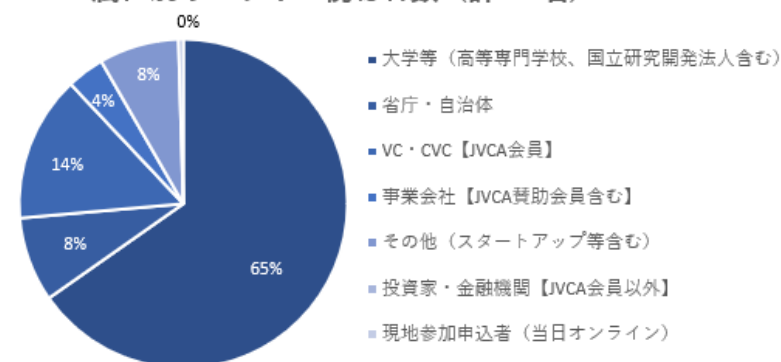
属性	①参加実績数	②事前申込者	①÷②
大学等（高等専門学校、国立研究開発法人含む）	133	202	65.8%
省庁・自治体	14	23	60.9%
VC・CVC【JVCA会員】	28	52	53.8%
事業会社【JVCA賛助会員含む】	6	12	50.0%
その他（スタートアップ等含む）	17	23	73.9%
投資家・金融機関【JVCA会員以外】	1	3	33.3%
オンライン参加申込者	199	315	63.2%
大学等（高等専門学校、国立研究開発法人含む）	8		
省庁・自治体	4		
VC・CVC【JVCA会員】	3		
事業会社【JVCA賛助会員含む】	2		
その他（スタートアップ等含む）	0		
投資家・金融機関【JVCA会員以外】	0		
事前登録無し	17		
合計	216		

■ オンライン時間帯別視聴数

時間	視聴数
13:15	132
13:45	156
14:45	170
15:30	170
16:00	160
16:45	139
17:30	101

単位:人

属性別オンライン視聴者数（計216名）



2-④ . シンポジウム結果 ～開催模様No.1～

▽基調講演



▽パネルディスカッション I



▽パネルディスカッション II

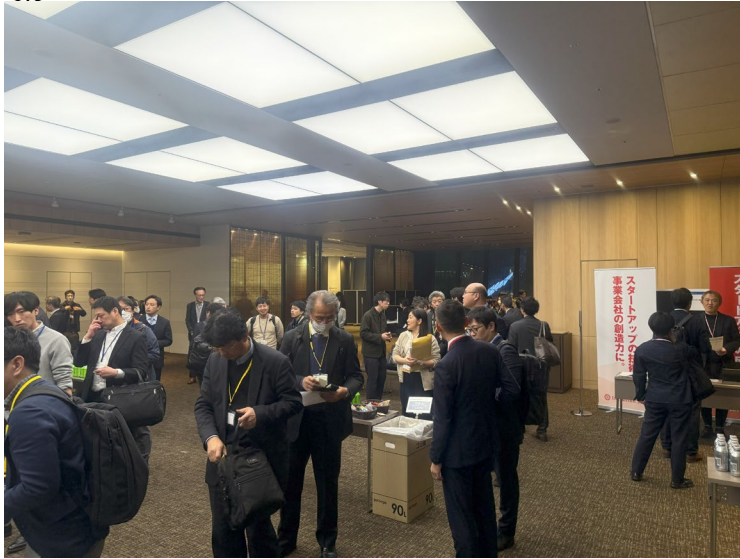


▽パネルディスカッション III

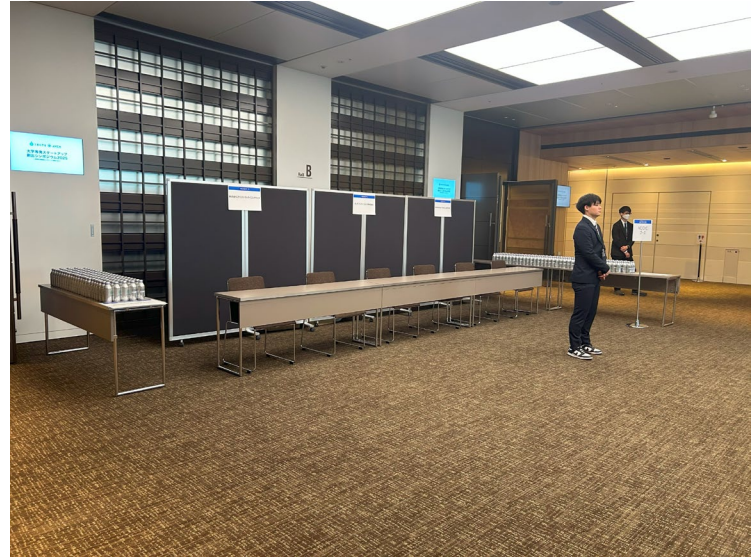


2-④ . シンポジウム結果 ～開催模様No.2～

▽ネットワーク風景



▽VC/CVCブース



▽クローク



▽受付



2-④．シンポジウム結果 ～開催模様No.3～

▽ステージ全景



▽ホワイエ（柱サイネージ）



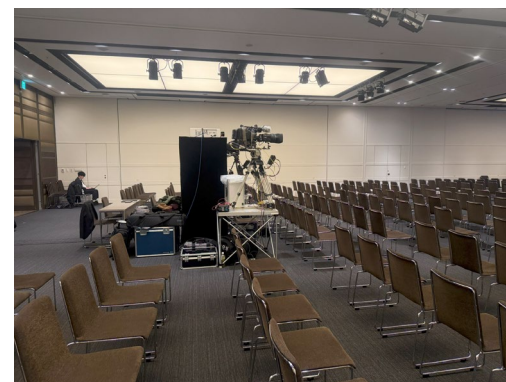
▽ネットワーキング卓上セッティング



▽VC/CVCブース設置



▽オペレーション・配信機材



3. 意見調査

3-①. 意見調査概要

調査対象	調査手法	調査実施時期	取得結果
登壇者	講演・パネルディスカッションにおける意見の抽出	25年1月29日	各パートより
来場者	アンケートにおける意見の抽出	24年1月29日 ～ 24年2月10日	162名からの回答より

3-②. 講演内容のサマリ

KEYNOTE SPEECH ～MITとエコシステム全体でイノベーションと起業精神を促進～

マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院経営学部教授 一橋大学イノベーション研究センター客員教授
オリックス株式会社社外取締役 マイケル・クスマノ氏

まとめ

日本の起業能力の低下という課題がある。スタートアップエコシステムの形成に重要な5つ要素（起業家・投資家・大企業・政府・大学）の中で、大学が担う役割は起業家精神の育成とスタートアップの加速である。テクノロジー志向の起業家を産出し研究を促す機関であり、大学間で連携し複数のエコシステム参加者を集結する事でよりスタートアップを加速させる事が可能とMITの活動実例を掲げながら日本におけるスタートアップエコシステムの形成加速を提唱する。

内容 サマリ

1・研究に重点を置き、次に教育

- ・戦中・戦後に拡大した軍事等の技術開発研究をベースに5つの学部を設立。研究によって得る収益が大学経営の基盤となる。2024年の収益は51億ドル、剰余金は4億8,500万ドルであり収益の41%はスポンサー付きの研究となっている。授業料の総収入はわずか8%となることから、重点を置くべきは研究という事になる。

2・起業家育成のプロセスと構造

- ・MITの卒業生によって設立される企業は3万社にのぼり、年間売り上げは2.5兆円を超える。MITの卒業生は年間300社の会社を設立。重要な点は大学がスタートアップの創出をサポートしている点である。MITのみならず他校もサポートするためエコシステムの拡大につながっている。

3・スタートアップの加速と大学の役割

- ・大学間の連携および大企業との連携がスタートアップの加速に重要である。MIT産業連絡プログラム会員260社の企業、MITの関連する1400社の企業にスタートアップを顧客になりうるの大企業、投資につながる大企業を紹介。大学は知的プラットフォームにとらえ授業においてもテクノロジー志向の起業家育成に取り組んでいる。

4・MITの使命

- ・起業や投資先においてリスクの軽減と不確実性の回避するべきだが、困難でリスクもあるが有望な技術に焦点をあてたファンドを設立。
- ・MIT REAP:地域起業加速プログラムを設立。複数の地域チームが参加するエコポートでMTGを行い参加チームのエコシステムにイノベーションと起業家精神に介入し加速しようとするプログラムの推進。

3-② . 講演内容のサマリ

PANNEL DISCUSSION- I プラットフォームセッション（渡辺俊也氏・小柳智義氏・河野簾氏・大西晋嗣氏・各務茂夫氏） ～全国のスタートアップ・エコシステムをつなぐ新しい取組～ No.1

まとめ

- ・ 2023年に開始した大学発新産業創出基金事業によるスタートアップエコシステム共創プログラムにより各地域で複数の大学連携によるプラットフォーム化が進み、現在全国9プラットフォームが形成された。その中ですでにGAPファンドの運用が進行しつつある中、全国ネットワーク支援というプログラムが昨年12月に開始され、全国で連携する事により効率的かつ広角的に推進し国内外に発信する事が重要。

内容 サマリ

全国ネットワーク支援のフレーム

（渡辺氏）戦略会議を実施し、**各機関のKPIを見える化する**「ワーキングゼロ」ワーキンググループの座長
全国に9プラットフォームが形成されつつあり、連携することで効率的、広角的に促進し海外に発信する。事業として国内外に「見える化」する事、海外拠点を整備する事、各プラットフォームが使用する拠点を効率的に共有する事、その拠点のコミュニティを発展させてつなげていく事、ワンストップ窓口の開設、全国9拠点にあるシーズ情報などを企業につなげる情報データベースの構築を行う。
つながる事で情報・人・機会がつながる。つなげるためにデジタル技術等を使用し情報データベースネットワークの構築と対面の機会形成を行う。また、そのブランディングも重要となる。つながる事で国内外のネットワークから機会を提供する。あるいは獲得の機会を増やす。

（小柳氏）**海外拠点の行動活用**「ワーキンググループ1」KSAC

関西の大学、経済界80機関でグループ形成した。京都大学では海外に目を向けて活動してきたため、北米、ASEAN地域にネットワークがあり今後他の地域とも共有する。主な実施項目は、海外拠点機能の高度化、アウトバウンド活動支援、インバウンド活動支援、グローバル・アントプレナー育成に向けた実践トレーニングとなる。

（河野氏）**研究シーズの情報共有**「ワーキンググループ2」Tongari

研究成果を技術シーズとして把握し抽出してGAPファンド支援につなげる事を目標とする。大きく3つのテーマで活動。シーズを発掘しGAPファンドにつなげるスタートアップ起業支援の促進。GAPファンドに採択された事業テーマを産業界またはVC等のステークホルダーに可視化し認知度向上につなげ資金調達に向けた支援を行う。倫理的かつ透明性の高いスタートアップを組成していく。起業するための環境を整備し、透明性の高いスタートアップの形成を目指す。

（大西氏）**事業化起業支援人材の育成・流動化促進**「ワーキンググループ3」PARKS

経営者候補人材のデータベース構築は従来の起業してからの人材ではなく研究段階のプロジェクトに配置し、大学研究者は研究に専念しプロ経営者候補が事業可能性を検討する仕組みとなる。2点の大きな課題に全国ネットワーク支援以前から取組み人材の調達、維持についての課題解決している。また、GAPファンド終了後にプロジェクトに人材が残り、起業推進人材の定着にも可能性を感じている。

（各務氏）**起業家支援人材の流動化に向けた共通基盤の構築**「ワーキンググループ3」GTIE

大学の持つ技術シーズが素晴らしいものであっても事業化するまでの距離がある。ディープテックでユニコーン企業を目標とした場合グローバル市場へのアドレスによって事業のスケナビリティが決まる。最初の段階で戦略的に事業を支援することが必要であるという問題意識から企業に働く人材を含めた経営者人材をプールしワンストップ窓口を開設し起業支援人材コンソーシアムを運営する。

3-② . 講演内容のサマリ

PANNEL DISCUSSION- I プラットフォームセッション（渡辺俊也氏・小柳智義氏・河野簾氏・大西晋嗣氏・各務茂夫氏） ～全国のスタートアップ・エコシステムをつなぐ新しい取組～ No. 2

内容 サマリ

パネルディスカッション

（安西氏）かなり大きな取組みのため産業界および金融機関の参画するがそれぞれの役割は？

（渡辺氏）戦略会議「ワーキングゼロ」は三井住友銀行が共同実施機関となり実質的な動きをとる。3年間で価値の創造をし産業界に引き継ぐ事になるため当初より実施機関として参画する事となった。リソースの集中する大企業の役割が重要。スタートアップの価値を10倍にするとしたならば大企業のリソースを活用しなければ現実的でなく、それをどのように作るかはこの全国ネットワークで道筋を明らかにする。

（安西氏）京都大学で進めていた海外展開において、全国ネットワークでつながる場合、技術領域が広くなり領域横断的な共通で支援できる部分と個別に支援する部分が発生すると思われる。

（小柳氏）日本の大学においても海外でカンパニークリエーションのような動きを支援する人材がキャピタリストも含めそろっている。このような状況を共有する。特許を出したばかりの技術でもどのような価値があるのか評価するプラットフォームは必要。全国プラットフォームに海外の人材に入っていただく構想。ディープテック領域では支援の方法について考えていくべきだが、日本の強み（データサイエンス・材料）から攻めていくのが切り口と考えている。

（安西氏）研究データベースの格納だけではなくマッチングし投資につなげる場合、どのような想定をしているか。

（河野氏）地域のみならず様々な考えなどが集約できるシステムの構築を目指している。シーズによってローカルで活躍できるもの、大企業との連携が必要なものを俯瞰的に見てマッチングしていく視点が大事である。

（安西氏）PARKSでの取り組みをどのように全国に広げるのか。人材は勤務地など地域性に関する課題もあり企業人材および経営支援人材についても全国ネットワークとどう両立するのか。

（大西氏）当初は既存の経営者データベースの全国統一版の作成を考えたが地域性や技術的な課題が判明した。全国のベストプラクティスを共有する事は決定しているが、将来的に企業人材等のデータベースを一本化する等の部分は模索している途中。

（各務氏）経営者人材と比較して支援人材は常駐をメインにしておらず、むしろネットワークを結び付けるルールの作成がポイント。

（安西氏）スタートアップの海外展開や産業の基盤・新しい起爆剤になるようなスタートアップを作るための課題感とそれに取り組む流れを感じるセッションであった。全国ネットを盛り上げていく上でも今後対話の機会を増やしていただきたいと考えている。

3-② . 講演内容のサマリ

PANNEL DISCUSSION- II 大学セッション

～海外拠点・海外大学・海外VCとの連携～

(石川正俊氏／小柳智義氏／渡辺俊也氏)

まとめ

スタートアップの成長のために海外に目を向ける。海外の投資家からの資金調達を考える。特にディープテック領域では多額の資金調達が不可欠で海外進出に向けて支援人材の育成、ブランディング、エコシステムへの接続など既に進み始め、全国でつながるという事で解決する糸口を提言しつつダイバーシティの低さなど多くの人が気づいていない問題が海外進出の障害になる可能性を指摘。

内容 サマリ

1・WEATの取組について (渡辺氏)

- ・ 昨年5月からの準備を開始。32か国400件の応募。(アフリカ地域の応募も多数)
- ・ WELL-BEINGがブランド化のキーワードになりえる。
- ・ WEATを切欠としたインバウンド投資や海外進出に結び付ける動き
- ・ WELL-BEINGの旗印のもと、企業・学生等が参加できるエコシステム構築を主眼にした動き

2・スタートアップ支援の人材について (石川氏)

- ・ 東京理科大ではDSICとIMがアクティビティを持ち育てている。ただし弱いと感じている。
- ・ 意図的にネットワーク構築する事でその次につなぐ事には賛成。
- ・ 研究者のネットワークを上手く使い一部を使いビジネスにつなげたい。
- ・ 投資部門構築のために民間で活躍する卒業生などで構成されていて、何よりマインドをもっている事が重要。

3・京都大における米国のアントプレナー育成とエコシステムとの接続 (小柳氏)

- ・ 京都大学でも筑波大学でも共通して実施。研究者やスタートアップだけを投資家に引合せるのは効果がない。
- ・ 日本の公的資金が取れなかったが現地ネットワークをもっていたことで成功した例がある。
- ・ グローバルアントプレナーの育成トレーニングの実施。エコシステムとの接続。

4・大学内にどのような人材が必要か

- ・ 東京大学は学内のスタートアップだけではなく広く支援し、東京大学だけでなく連携して支援する方向性のため学内の人材は少ない。
- ・ エコシステムデザインをする上でダイバーシティを高くする事が重要。学生は金銭的リターンより社会課題解決に向かう傾向のためその部分を引き上げモチベーションを高める動きなどで基盤整備をしてブランディングをしっかりとしていくと連携が可能と考える。

5・VC/CVCに対する要望

- ・ 海外市場はAIをはじめ日本の強みを理解し投資の対象としている。海外VCと比較して決済が遅い。
- ・ ダイバーシティを高めないと経済上問題である。

3-② . 講演内容のサマリ

PANNEL DISCUSSION-Ⅲ スタートアップセッション

～グローバル展開を目指す国内スタートアップの動向～ （西岡和彦氏／福田恵一氏／松山宜弘氏）

まとめ

グローバル展開を成功させている企業の先行事例を共有。共通するのは**優れた技術力を開発し起業当初から海外進出を目指していた**事。医療系においてはアカデミア段階でシーズを成熟させ**グローバル展開するには競争力をもって資金調達に臨み**、金属技術、宇宙開発では大学が技術力の裏付けをすることで**スピード感のある資金調達**が可能だった事。技術力もさることながら**エコシステムの活用を含む人材の調達がキーサクセスファクター**である。

内容 サマリ

1・サクセス事例の生まれている場所で起業する（西岡氏）

- ・金属の再利用に関する技術を用いた起業目的がグローバルの金属産業を変えつくす事にあったためデカコンを目指した。
- ・サクセス事例の生まれている場所での起業を目指した。その場所にはディープポケットがありエコシステムがあった。
- ・大学との連携では初期の技術の裏付けをとれた事が投資へのカギであった。大学の持つエコシステムの活用ができた。
- ・大学との契約のスピード感については課題があるが改善されると継続性、プロジェクトの増大の可能性を見出せる

2・バイオスタートアップが海外大手企業との提携のために（福田氏）

- ・専門家のレピュテーションと高いサイエンスレベルが必須。大学から論文を出し特許をとっておく事が世界と連携するには必須である。
- ・シーズの段階でグローバル展開を目指す目標を持っていた。世界の投資家・製薬会社のトップに積極的に面談の機会を得た。
- ・グローバル製薬会社におけるデューデリジェンスに対応できる英語力が必要そのような人材と製薬会社で経験値のある人材の確保。
- ・製薬会社のプライシング、マーケティングのヘッドクォーターとして活躍できる人材の確保が必要
- ・医学領域の大学発ベンチャーはアカデミアの段階でシーズの成熟が重要。そのために大学は非常にベンチャー向きであると考える。
- ・大学発VCから早い段階で資金調達できたことで会社の信頼度を上げる事が出来た。
- ・今後の展望として開発スピードを上げて短期間でグローバルのトップを目指す。

3・自社で開発し先行した技術を進化させ全世界に同時展開（松山氏）

- ・各国政府からの受注のため子会社を設立することが不可欠のため、優秀なトップ人材の確保、現地主導で展開、現地への手厚いサポート
- ・大学との関わりは起業当初に要素技術開発で支援をいただき、今後も継続していく。
- ・大学発VCから資金調達できたことで力強い支援をもらったと感じる。
- ・ディープテック領域でレイターステージになると資金調達が難しくなる日本の課題がある。大学発VCにはより存在感を示してもらえるとユニコンやデカコンと呼ばれる企業が生まれる可能性が高まると感じる。

3-③. アンケート概要 ～実施概要～



3-③. アンケート概要 ～取得項目～

1. 基本情報

- 1-1. 所属団体の種別
- 1-2. 所属団体名・役職

2. シンポジウムについて

- 2-1. 本シンポジウムへの参加動機
- 2-2. 具体的な参加動機
- 2-3. 本シンポジウムの満足度
- 2-4. 満足度選択における具体的な理由
- 2-5. 次回のシンポジウムへの要望

3. シンポジウム内コンテンツについて

- 3-1. 基調講演の満足度
- 3-2. パネルディスカッションⅠの満足度
- 3-3. パネルディスカッションⅡの満足度
- 3-4. パネルディスカッションⅢの満足度
- 3-5. 懇親会の満足度

4. 大学等とVC/CVCの連携について

- 4-1. （所属団体にて大学等を選択された方のみ）VC/CVCとの連携について期待していること
- 4-2. （上記No.4-1について）具体的に期待していること
- 4-3. （所属団体にてVC・CVCを選択された方のみ）大学等と連携する上で重要視していること
- 4-4. （上記No.4-3について）具体的に重要視していること

5. 課題について

- 5-1. 大学等を中心としたスタートアップ・エコシステムの形成、大学等発スタートアップにおける課題として日頃より感じておられること
- 5-2. （上記No.5-1について）具体的に感じておられる課題
- 5-3. 日本の大学等発スタートアップがグローバル展開をする上での課題として日頃より感じておられること
- 5-4. 日本の大学等発スタートアップがグローバル展開をする上での課題として日頃より感じておられること
- 5-5. （上記No.5-3について）具体的に感じておられる課題

6. 国に期待する支援策について

- 6-1. 国に期待する支援策についてご要望

3-④. アンケート結果

アンケート回答実績

アンケートは参加者426名に対して、回答**162件**、回答率**38%**（昨年対比-3.6%）であった。
現地参加の回答率は、38.1%（昨年対比-25.9%）、オンライン参加の回答率は、38%（昨年対比+10.9%）となった。

■ アンケート回答率

参加形態	参加者数(件)	回答数(件)	回答率
現地参加	210	80	38.1%
オンライン参加	216	82	38.0%
合計	426	162	38.0%

■ 昨年実績

参加形態	参加者数(件)	回答数(件)	回答率
現地参加	172	110	64.0%
オンライン参加	266	72	27.1%
合計	438	182	41.6%

▽ アンケート回答率に関する分析

- 1 現地参加者については、昨年と違い机がなかったため記述しにくい環境であった
- 2 現地参加者からオンラインでのアンケート回答に変更申し込みがあった
- 3 オンライン参加者については、シンポジウム後に全体メールではなく参加者個別にメールした

上記3項から、来年度の実施では、記述と別にオンライン回答ができるQRコードをアンケート用紙に記載し、回答率を上げるとともに、オンライン参加者については必続き接続実績に基づいたリマインドメールの実施を行う事で回答率を上げる事が可能と考える

3-④ . アンケート結果

属性別回答結果

昨年同様、大学等（高等専門学校、国立研究開発法人を含む）の属性の回答数が最も多く、現地＋オンラインで90名の回答（全体に対して49.5%）を得られた。また、本年度の現地参加率（事前申込数と実績比較）は昨年比＋10%と注目度が高かったと考える。

■ 現地参加者数

単位：人

属性	①参加実績数	②事前申込数	③アンケート回答数	参加率(①÷②)	アンケート回答率(③÷①)
大学等（高等専門学校、国立研究開発法人含む）	75	93	32	80.6%	42.7%
省庁・自治体	16	11	7	145.5%	43.8%
VC・CVC【JVCA会員】	77	106	30	72.6%	39.0%
事業会社【JVCA賛助会員含む】	21	21	3	100.0%	14.3%
その他（スタートアップ等含む）	13	21	5	61.9%	38.5%
投資家・金融機関【JVCA会員以外】	8	12	3	66.7%	37.5%
合計	210	264	80	79.5%	38.1%

■ オンライン参加者

単位：人

属性	①参加実績数	②アンケート回答数	③回答率(②÷①)
大学等（高等専門学校、国立研究開発法人含む）	133	62	46.6%
省庁・自治体	14	4	28.6%
VC・CVC【JVCA会員】	28	9	32.1%
事業会社【JVCA賛助会員含む】	6	2	33.3%
その他（スタートアップ等含む）	17	5	29.4%
投資家・金融機関【JVCA会員以外】	1	0	0.0%
不明（事前登録無し）	17	0	0.0%
合計	216	82	38.0%

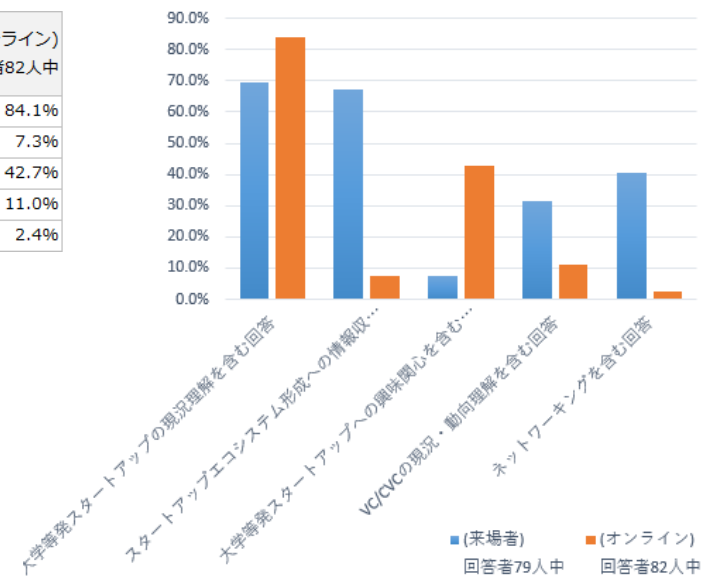
3-④ . アンケート結果

2-1. 本シンポジウムへの参加動機

本シンポジウムへの参加動機として、複数回答を踏まえて集計すると現地参加者とオンライン参加者で違いが出た。オンライン参加者は興味関心に集中し、現地参加者は情報収集のために参加している事がわかる。具体的な参加動機からオンライン参加者の参加動機は今後スタートアップ起業活動を行うための情報収集で、現地参加者は既に起業後のつながりを求めている事がわかる。

回答区分	現地参加 (件)	オンライン (件)	回答合計 (件)	(来場者) 回答者79人中	(オンライン) 回答者82人中
大学等発スタートアップの現況理解を含む回答	55	69	124	69.6%	84.1%
スタートアップエコシステム形成への情報収集を含む回答	53	6	59	67.1%	7.3%
大学等発スタートアップへの興味関心を含む回答	6	35	41	7.6%	42.7%
VC/CVCの現況・動向理解を含む回答	25	9	34	31.6%	11.0%
ネットワーキングを含む回答	32	2	34	40.5%	2.4%

本シンポジウムへの参加動機を教えてください。



3-④ . アンケート結果

2-2. 本シンポジウムへの具体的な参加動機 No.1 (大学等発スタートアップ状況理解を含む回答)

■ 現地参加者：つながりを作りたいという意見が多くみられる傾向

カテゴリー	回答内容
大学等発スタートアップの状況理解	他大学の取り組みについて知りたかったため
大学等発スタートアップの状況理解	全国特に関東地区のスタートアップ活動の状況理解
大学等発スタートアップの状況理解	今後の大学発スタートアップ、エコシステムの記事化
大学等発スタートアップの状況理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集	現在、運営する大学でスタートアップ支援の取り組みの再構築を行っているため
大学等発スタートアップの状況理解, ネットワーキング	各大学の取り組み状況
大学等発スタートアップの状況理解, ネットワーキング, VC/CVCの状況・動向理解	VCの動向を把握したい。つながりを作りたい。CEO人材の発掘手法を学びたい。
大学等発スタートアップの状況理解, ネットワーキング, VC/CVCの状況・動向理解	連携していないVC/CVCとのネットワーキング
大学等発スタートアップの状況理解, ネットワーキング, スタートアップエコシステム形成への情報収集	他PF、全国NWについての情報収集及びネットワーキング
大学等発スタートアップの状況理解, ネットワーキング, スタートアップエコシステム形成への情報収集	本学の取り組みの参考にするため
大学等発スタートアップの状況理解, ネットワーキング, スタートアップエコシステム形成への情報収集	登壇者、来場者とのネットワーク
大学等発スタートアップの状況理解, ネットワーキング, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解	関係者の課題感を知りたい→そのうえでどう解決しようとしているのか？
大学等発スタートアップの状況理解, 大学等発スタートアップへの興味関心	起業を考えているため、ベンチャー、大学等発スタートアップの現状を聞きにきました。
大学等発スタートアップの状況理解, 大学等発スタートアップへの興味関心	9つのPF連携について
大学等発スタートアップの状況理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集	スタートアップ支援のための情報収集
大学等発スタートアップの状況理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解	スタートアップ支援の最新の情報を手に入れるため。
大学等発スタートアップの状況理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, ネットワーキング	大学のスタートアップ関連部署の方の話を伺う機会は非常に貴重だと感じました。
大学等発スタートアップの状況理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, ネットワーキング, スタートアップエコシステム形成への情報収集	スタートアップがほとんどない大学において、今後どのように展開していくか情報を得る為。講師との情報交換。
大学等発スタートアップの状況理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, ネットワーキング, スタートアップエコシステム形成への情報収集	大学発SUとの連携強化、リーシング、出資
大学等発スタートアップの状況理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, ネットワーキング, スタートアップエコシステム形成への情報収集	ほぼ大学発スタートアップばかりに投資しているが、全体の動きには疎いため
大学等発スタートアップの状況理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, ネットワーキング, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解	石川先生のお話を聞きに
大学等発スタートアップの状況理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, ネットワーキング, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解	地方大学で困っているところがある
大学等発スタートアップの状況理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, ネットワーキング, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解	大学発SUの成長支援に資する情報課題認識のため

3-④ . アンケート結果

2-2. 本シンポジウムへの具体的な参加動機 No.2 (大学等発スタートアップ状況理解を含む回答)

■ オンライン参加者：大学関係者・支援者が状況の把握を目的としている傾向

カテゴリー	回答内容
大学等発スタートアップの現状理解	大学等発スタートアップの現状理解
大学等発スタートアップの現状理解	効果的な支援に向けて
大学等発スタートアップの現状理解	大学等発スタートアップの現状を知りたかった。
大学等発スタートアップの現状理解	JST事業だから
大学等発スタートアップの現状理解	SIR制度への参加などスタートアップ企業の力を借りる場面が今後想定されるところ、情報収集のため参加した。
大学等発スタートアップの現状理解	主要プラットフォームにおける状況や取り組みについて情報をえたかった。
大学等発スタートアップの現状理解	個社の動向に関心があり参加しました
大学等発スタートアップの現状理解	グローバル化のための検討のため
大学等発スタートアップの現状理解	海外との連携がテーマにあり、現状を理解できたらと思いました
大学等発スタートアップの現状理解	最新大学等発スタートアップの現状について、インプットしたいと考えていた。
大学等発スタートアップの現状理解	外部機関の取り組み状況の把握して学内で取り組みに活用したいため
大学等発スタートアップの現状理解	回答通り、現状が理解したいことが動機です。
大学等発スタートアップの現状理解	学内のスタートアップ支援部門担当となったため
大学等発スタートアップの現状理解	現職で大学等発スタートアップ支援を行っているので。
大学等発スタートアップの現状理解	Tongai以外のプラットフォームが全国スタートアップ・エコシステムについてどのような取り組みを行っているのを知りたかった。
大学等発スタートアップの現状理解, VC/CVCの状況・動向理解	大学等発スタートアップを成功させる理由を知りたかったため
大学等発スタートアップの現状理解, VC/CVCの状況・動向理解	臨床研究の支援をするにあたり、スタートアップについて耳にする機会がちょうど増えていたタイミングでシンポジウムを知ったので、参加してみたいと思いました。
大学等発スタートアップの現状理解, VC/CVCの状況・動向理解	大学等発スタートアップを取り巻く状況と、各VCの動向、投資領域について知りたかった。
大学等発スタートアップの現状理解, VC/CVCの状況・動向理解	自身の大学等発スタートアップ設立の構想のため
大学等発スタートアップの現状理解, VC/CVCの状況・動向理解	沖縄では、昨今のスタートアップ事業や成功事例・支援内容等について聞く機会が少ない。本会はスタートアップ事業や大学発ベンチャー、それを支援するVC/CVCの方々のお話を聞くことができる良い機会である。多くの情報を収集し、本学でのスタートアップ支援事業の参考にしたい。お役に立ちたいと思ったから。
大学等発スタートアップの現状理解, VC/CVCの状況・動向理解	学内人材へのスタートアップ意識醸成に向けて啓発活動を行う上で状況理解したいため
大学等発スタートアップの現状理解, VC/CVCの状況・動向理解	大企業CVCの取組内容や、各大学又は大学発の動向を理解するため。
大学等発スタートアップの現状理解, VC/CVCの状況・動向理解	最新の業界動向を入手したかった。
大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集	大学等発スタートアップ支援が本業
大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集	今後本学としてスタートアップ創出支援体制を構築していく上での情報収集
大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集	スタートアップへの助成や支援事業申請のための情報収集
大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集	昨年も本シンポジウムに参加しており、知識のアップデートを図るため
大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集	大学のスタートアップ支援策検討のため
大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集	プラットフォームネットワークのマクロな目的の把握、課題感の情報収集
大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集	大学等発スタートアップエコシステム構築にかかる業務を委託し、今後戦略をデザインしていく必要があるため。
大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集	起業家支援人材として現状の理解・情報収集
大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集	現在の業務に深く関わっているため

大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集	PARKS GAPファンド採択研究者を支援している
大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集	大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集
大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解	大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解
大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解	大学等発スタートアップの現状理解, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心	各大学の取り組みについて理解をしたいと思い参加した
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心	大学の研究内容での実績が乏しいため
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心	SUの現状を知り、将来的な本学でのSU支援スキームを企画したかったため
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心	活動状況が知りたかったため。
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心	本学でも機運が高まっており、体制づくりが行われようとしているため
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心	大学等発スタートアップ起業家の支援をしているため
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心	大学等発スタートアップ支援にかかわっているため
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, VC/CVCの状況・動向理解	大学等発スタートアップの中でも特にディープテック領域に対して、考え方や動向を知りたかったため
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, VC/CVCの状況・動向理解	日本の経済やスタートアップエコシステムにとって、大学の求められている最新の風潮や流れを知るため。またディープテックスタートアップにとっての海外展開の必要性とリスクマネジメントについての調査。
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集	大学等発スタートアップの各プラットフォームの現状把握
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集	全国NWの取り組み内容についての情報収集
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集	本学は信州大学様が主幹のJUEに参画し、研究成果の社会実装に取り組んでおりますが、学内の気運がなかなか盛り上がり苦慮しているため、様々な面で情報収集できればと思い、参加させていただきました。
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集	昨年度の基調講演が良かったので、今回も期待して受講した。
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集	大学等発スタートアップの支援を行っているため、情報収集を行うことを期待して参加
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集	お話を伺いたいバネリストが多かったため
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解	選択した項目について、情報収集を主な目的として参加しました
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解	大学等発スタートアップに関する国内の先進事例の情報収集のため
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解	スタートアップ関連業務（事務）を担当しているためその情報収集のため。
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解	創業エコシステムの構築や、スタートアップ支援、VCとの連携に関わる事業（開発）をしているため。その情報集、温度感を知りたいと思ったため。
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解	本学も参加する全国NWの取組発信について現状を理解するため。
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解	大学等発スタートアップを担当しており、情報収集のため
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解	職務上、現状理解をしたかったため
大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, ネットワーキング, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解	大学等発スタートアップの現状理解, 大学等発スタートアップへの興味関心, ネットワーキング, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの状況・動向理解

3-④ . アンケート結果

2-2. 本シンポジウムへの具体的な参加動機 No.3 (大学等発スタートアップ興味関心を含む回答)

※前頁でSUの状況理解に重複しない回答

■ 現地参加者：海外進出について検討している意見が多くみられる傾向

カテゴリー	回答内容
大学等発スタートアップへの興味関心, VC/CVCの現況・動向理解	海外展開の方法やシナリオに対する理解を深めたい
大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集	海外にどう行か、大学発のスタートアップの市場感をつかむため
大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの現況・動向理解	スタートアップのソーシングのヒントを探す
大学等発スタートアップへの興味関心, ネットワーキング, スタートアップエコシステム形成への情報収集	投資先・連携先の探索

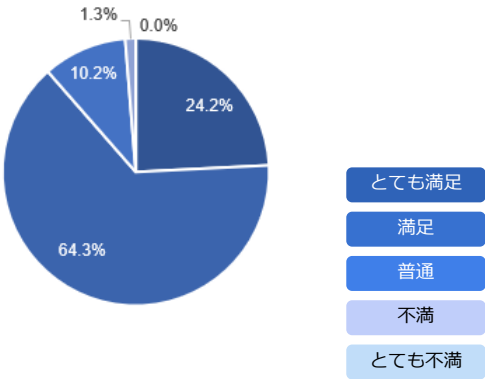
■ オンライン参加者：今後スタートアップ起業を検討している意見が多くみられる傾向

カテゴリー	回答内容
大学等発スタートアップへの興味関心	大学による研究者への企業連携等への推進の働きかけがあったから
大学等発スタートアップへの興味関心	産学連携として参画しているため
大学等発スタートアップへの興味関心	今後、大学がより促進すべき役割の一つと考えるため。
大学等発スタートアップへの興味関心	ベンチャー企業の設立を考えているため
大学等発スタートアップへの興味関心, VC/CVCの現況・動向理解	先日ベンチャーキャピタルより大学発ベンチャーの話を受け、何も進めていない本学でも喫緊の課題として取り組まなければいけないと必要性に駆られたから
大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集	研究力向上を目指す国プロ実施機関として、主要大学のSU支援やファンド獲得の現状・動向に関心あり
大学等発スタートアップへの興味関心, スタートアップエコシステム形成への情報収集, VC/CVCの現況・動向理解	スタートアップ支援部署として、業務推進の参考になる情報が欲しかったため。

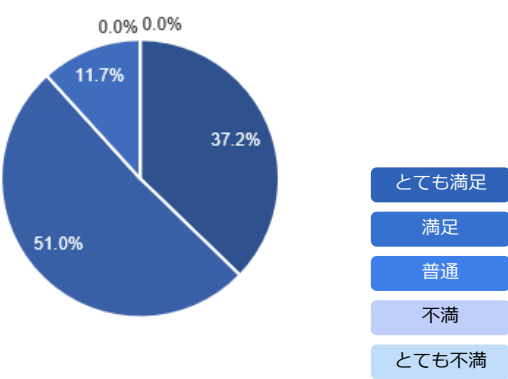
3-④ . アンケート結果

2-3・3-1～3-5. シンポジウムの満足度

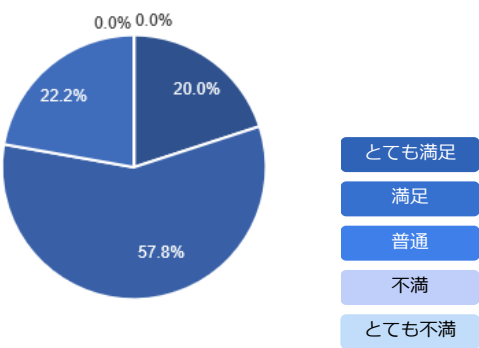
シンポジウム全体に対する満足度(回答数:162件)



基調講演に対する満足度(回答数:162件)

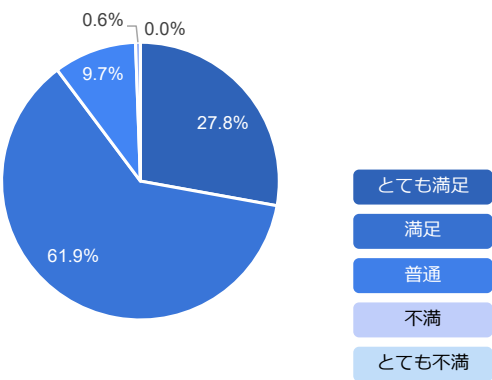


懇親会に対する満足度(回答数:80件)

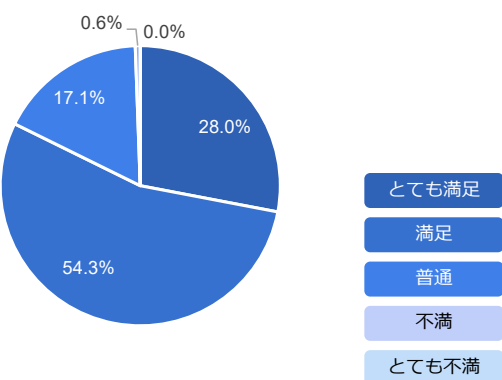


今年の満足度数値

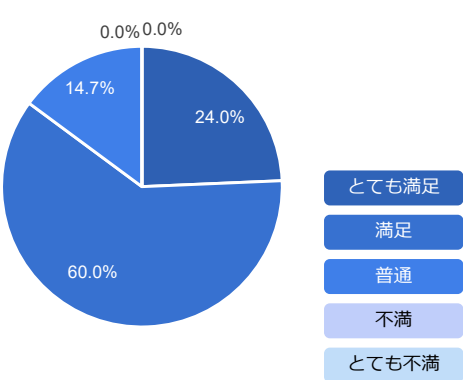
シンポジウム全体に対する満足度(回答数:176件)



基調講演に対する満足度(回答数:175件)



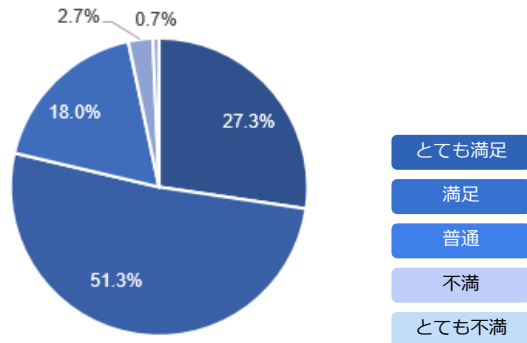
懇親会に対する満足度(回答数:74件)



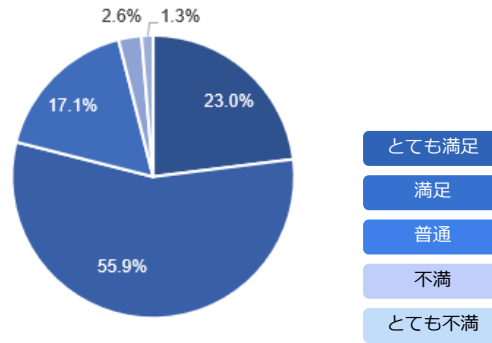
3-④ . アンケート結果

2-3・3-1～3-5. シンポジウムの満足度

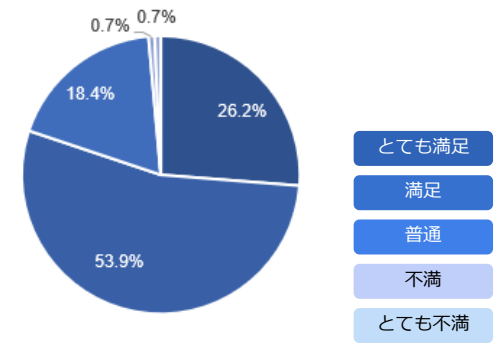
パネルⅠに対する満足度(回答数:162件)



パネルⅡに対する満足度(回答数:162件)

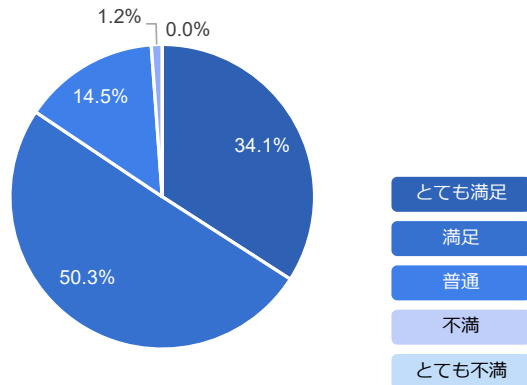


パネルⅢに対する満足度(回答数:162件)

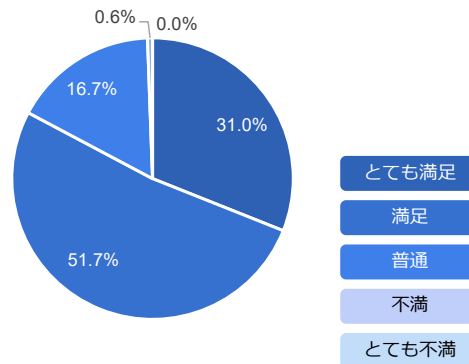


—— 昨年の満足度数値 ——

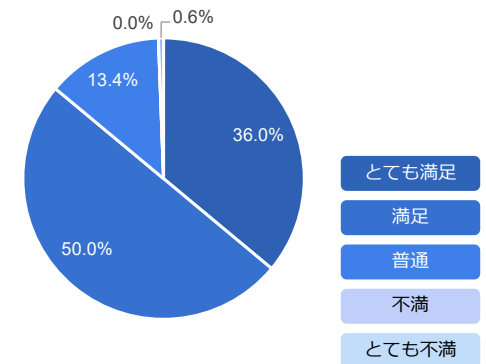
パネルⅠに対する満足度(回答数:173件)



パネルⅡに対する満足度(回答数:174件)



パネルⅢに対する満足度(回答数:172件)



3-④ . アンケート結果

2-3・3-1～3-5. シンポジウムの満足度

2025年		シンポジウム全体に対する 満足度			基調講演に対する満足度			パネル1に対する満足度			パネル2に対する満足度			パネル3に対する満足度			懇親会に対する 満足度		
	得点	来場者 得票数	オンライン 得票数	合計点数	来場者 得票数	オンライン 得票数	合計点数	来場者 得票数	オンライン 得票数	合計点数	来場者 得票数	オンライン 得票数	合計点数	来場者 得票数	オンライン 得票数	合計点数	来場者 得票数	オンライン 得票数	合計点数
とても満足	3	21	17	114	27	26	159	23	18	123	19	16	105	20	17	111	9	0	27
満足	2	44	57	202	35	39	148	35	42	154	39	46	170	35	41	152	26	4	60
普通	1	8	8	16	8	9	17	11	16	27	12	13	25	13	13	26	10	1	11
不満	-1	2	0	-2	0	0	0	4	0	-4	3	1	-4	1	0	-1	0	0	0
とても不満	-2	0	0	0	1	0	-2	0	1	-2	1	1	-4	0	1	-2	0	0	0
	得票計	75	82		71	74		73	77		74	77		69	72		45	5	
	平均点数			2.1			2.2			2.0			1.9			2.0			2.0
※平均点数は合計点数÷得票数																			

2024年		シンポジウム全体に対する 満足度			基調講演に対する満足度			パネル 1 に対する満足度			パネル 2 に対する満足度			パネル 3 に対する満足度			懇親会に対する 満足度					
	得点	来場者 得票数	オンライン 得票数	合計点数	来場者 得票数	オンライン 得票数	合計点数	来場者 得票数	オンライン 得票数	合計点数	来場者 得票数	オンライン 得票数	合計点数	来場者 得票数	オンライン 得票数	合計点数	来場者 得票数	オンライン 得票数	合計点数			
とても満足	3	34	15	147	32	17	147	40	19	177	37	17	162	44	18	186	18	1	57			
満足	2	62	47	218	53	42	190	50	37	174	52	38	180	50	36	172	45	7	104			
普通	1	8	9	17	17	13	30	10	15	25	12	17	29	6	17	23	11	62	73			
不満	-1	0	1	-1	1	0	-1	1	1	-2	1	0	-1	0		0			0			
とても不満	-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	-2		1	-2			
	得票計	104	72		103	72		101	72		102	72		100	72		74	71				
	平均点数				2.2						2.2						2.2			1.6		
※平均点数は合計点数÷得票数																						

3-④ . アンケート結果

2-3・3-1～3-5. シンポジウムの満足度

基調講演に関する満足度はとても満足が9.2ポイント向上。満足・とても満足の合計でも5.9ポイントの向上となった。

満足度を点数化し昨年と比較。基調講演は0.1点の上昇がみられた。

シンポジウム全体の満足度は満足・とても満足で昨年比1.1ポイントダウンとなった。さらに不満と回答した回答者が昨年1名に対し本年2名となりその理由についての記載がないため要因は不明。2名の属性はURA・VC/CVC(JVCA会員以外)だった。

昨年対比点数においても-0.1点となった。

懇親会に関する満足度調査では、昨年と比較するととても満足という回答が4.0ポイントダウンし、満足と回答した参加者も2.2ポイントダウンという結果になった。懇親会に関しては昨年オンライン参加者の投票が多数あり、オンライン参加者の得点を無効とした場合本年度の昨年対比点数は-0.1点である。

パネルディスカッションⅠ・Ⅱ・Ⅲのとても満足という回答者はいずれも昨年と比較してポイントダウンし満足と回答した参加者が増加しているものの不満、とても不満の数値が上昇した。各ディスカッションごとの自由回答を求めていなかったため、直接の意見は回収できていないが不満・とても不満と回答した方のシンポジウム全体の満足度・次回シンポジウムへの要望の項目で記載された内容は以下に記載。

- ・表面的・一般的な話ばかりだった。もっとリアルでエッジの効いた内容の方がよい。
- ・大きな流れを知るにはよい機会になった。（2名以外の方については自由回答未記入）

昨年対比点数を見ると本年度の評価が低下しているが、来場者アンケートの回収率が低いことの関係性もあり不明と考える。

ただし参加率、アンケート回収率がほぼⅠ・Ⅱで同数にもかかわらず、例年パネルⅡがⅠ・Ⅲよりも点数が低くなる傾向という事が見て取れる。

3-④ . アンケート結果

2-5. 次回のシンポジウムへの要望（大学関係者）

大学関係者からは、下記回答を得た。パネルディスカッション内容を深堀または時間を長くしたいという意見が散見されました。参加者の環境に近い具体例を聞きたいという要望（進め方・ライフサイエンス系・国内事例や大きな成功例）もございました。

カテゴリ	回答内容
JRA	海外展開の実態をもう少し深く知りたい
JRA	事例紹介をお願いします
JRA	大学側の視点や知識ベースでの議論の拡充を希望
JRA	パネディスカッションの時間をもう少し長くしてほしい
JRA	スタートアップの進め方のレクチャーがあるとありがたい
JRA	国内大学の事例紹介があればよかった。
JRA	国内での大きな成功例に関する講演
JRA	資金力のない大学にとって、どのような対応が可能かについて知りたい
JRA	ライフサイエンス系スタートアップの具体事例など
JRA	グローバルスタートアップキャンパス構想なども動いていると思うので、地方も含めた各地域の取り組みとの繋がりなどご紹介いただけるとありがたいです。
JRA	いろんな関係者の話を聞きたい。
JRA	継続してこのような機会があることを期待します。
JRA	東京以外での開催もあると良いと思いました。
JRA	本日はグローバルでしたが、ローカルスタートアップについても聞きたいです。
JRA, その他 (スタートアップ等含む)	海外エコシステムとの比較と日本の取り組みの改善について
JRA, 事務職員	アーカイブで再度視聴できれば幸いです。
事務職員	ぜひ継続して開催してほしい
事務職員	スタートアップしたが、残念ながら成功しなかった事例の紹介をしてほしい。

事務職員	スモールビジネスに関する内容にも焦点を当ててほしい。経営人材育成のためには、スタートアップだけでなく、スモールビジネスの経験も有用で、かつ、スモールビジネスならチャレンジする者も多いため。
事務職員	なぜグローバル展開が進まないのかの検証
事務職員	パネディスカッションは色々な情報を知る良い場であるので、もう少し時間を長くしてもらって、内容の深堀りをしてほしい
事務職員	まだスタートアップ対応をして日が浅い大学の事例が知りたい。
事務職員	ユニコーンに成長したスタートアップの経験談を聞かせていただきたい
事務職員	ユニコーンを目指す大学発SUの具体的な成功事例・有効な支援要因について知りたい
事務職員	海外の企業と日本のスタートアップ、日本企業と海外のスタートアップの協業事例なども聞いてみたい。
事務職員	実際にSUの経営者にご登壇いただきたいです。
事務職員	成功事例だけでなく、経験を踏まえた失敗事例をお聞かせください
事務職員	他のPFの、公開情報からは読み取りにくい、実際上の取り組みにおける課題や、我々のような黎明期をどのように超えてこままでにいったのかなどを聞けたら嬉しいと思いました。（この場ではないかもしれませんが・・・）
事務職員	大学での取り組み事例
事務職員	大学や機関におけるスタートアップ支援策の実例
事務職員	大学発スタートアップのエコシステムは継続性が重要だと思うので、引き続きスタートアップ・エコシステムに励みとなる発信をお願いしたい。
事務職員	内容については要望はありませんが、ぜひ次回も参加し、その時までにはもう少しスタートアップの知識をつけていたいと思います。
事務職員	日ごろの業務分野とは異なるテーマでしたが、今後の大学の運営や社会とのかわり方を考える際、担当部門に拠らず基礎的な動向を理解しておくことが必要なテーマと感じました。この分野で活発に活躍されて実績もある大学等の中で、大学全体向けの情報共有をしている事例等(inner communicationの好事例)あれば、お話しをお伺いできると国内大学で今後取り組む際に参考となり、より幅広い方が参加しやすいと思います。貴重な機会をいただき、どうもありがとうございました。

3-④ . アンケート結果

2-6. 次回のシンポジウムへの要望（大学関係者以外）

大学関係者以外からは、VCとの関係性について要望を得ております。また、起業まもなく、もしくは成功しつつある過程の事例や失敗例など基礎的な講演を要望する意見も散見されました。

カテゴリー	回答内容	その他（スタートアップ等含む）	海外VCを呼び込む方法について
VC/CVC【JVCA会員以外】	いくつか動いて会話ができる場所があるとよかった。そのために2部屋で講演してほしい。	その他（スタートアップ等含む）	海外VCを呼び込む方法について
VC/CVC【JVCA会員以外】	若い女性の学生のみで行う受付業務に違和感がありました。	その他（スタートアップ等含む）	海外のステークホルダーから見たプロコン
VC/CVC【JVCA会員以外】	大変勉強になりました。ありがとうございました。	その他（スタートアップ等含む）	継続して頂きたい
VC/CVC【JVCA会員以外】	もっとリアルでエッジの効いた内容の方がよい。	その他（スタートアップ等含む）	今回の形式を継続することを希望します。
VC・CVC【JVCA会員】	もう少しパネルディスカッションの時間が長いと嬉しいです	その他（スタートアップ等含む）	昨年度や今回のような基調講演を是非続けて欲しい。
VC・CVC【JVCA会員】	海外のVCがどのように大学と連携しているのか、海外事例を紹介してほしい。	その他（スタートアップ等含む）	次の開催も参加したいです。
VC・CVC【JVCA会員】	型にはまった話が多かったので、困っていることなど、より現場に近い話がほしいと感じた。	その他（スタートアップ等含む）	成功しつつある具体的事例の紹介
VC・CVC【JVCA会員】	大学側の事業化に関するポリシー	その他（スタートアップ等含む）	創業後間もない（可能であればバイオ系）スタートアップ経営陣の声を聴きたいです
VC・CVC【JVCA会員】	定期的な開催をお願いしたい。	その他（スタートアップ等含む）	地方大学の状況を知りたい
その他（スタートアップ等含む）	中央の大学だけでなく、地方大学の取り組みや状況について	その他（スタートアップ等含む）	来年度以降も継続的な開催を希望いたします。
その他（スタートアップ等含む）	会場は、前回までの東大伊東国際学術研究センターもほうが机があて良かった。/配布資料は、発表順にしてほしい。（パネルディスカッションⅠは逆）	事業会社【JVCA賛助会員含む】	deep dive into life science
その他（スタートアップ等含む）	全体的な基礎情報がわかるとうれしい	事業会社【JVCA賛助会員含む】	オンラインで参加できる機会が広がるとよい。
その他（スタートアップ等含む）	SUで一番困難だった点およびその時期、成功の時期と成長カーブとその背景、また何をもって成功と考えるか	省庁・自治体	パネルディスカッションにおいて、会場やオンラインから質問等できる機会があるとより良いと思いました。
その他（スタートアップ等含む）	VCから投資を受けたスタートアップの代表のご講演をお願いしたい。	省庁・自治体	大学系VCとのネットワーキングができる機会があれば嬉しい
その他（スタートアップ等含む）	VCセッションを2部構成にして登壇頂くVCを増やしていただけるとありがたいです。	省庁・自治体	地域自治体との連携についても話題にしてほしい
その他（スタートアップ等含む）	VCの方のお話も聞きたい	省庁・自治体	ディープテックスタートアップの成長の加速
その他（スタートアップ等含む）	また、開催していただきたく存じます	省庁・自治体	大学間の連携状況（成功事例や失敗事例）や今後の展望などについても教えていただけると嬉しいです。
その他（スタートアップ等含む）	より具体例	投資家・金融機関【JVCA会員以外】	海外エコシステム、コミュニティとの連携の課題（なぜできないのか？）（個別案件での連携のみにとどまる）
その他（スタートアップ等含む）	ローカルにフォーカスした大学発スタートアップエコシステムいかに地域社会の今に未来にコミットしていくか？		

3-④ . アンケート結果

4-1. (大学等関係者向け) VC/CVCとの連携について期待していること

大学等関係者が、VC/CVCに求めることは、複数回答のうち、マッチング・情報交換機会の創出と成長ステージごとの連携・伴走のいずれかを選択する回答者が多数。その他オンライン参加者では資金調達や経営体制、顧客/取引先の開拓など起業後の不安要素をあげる回答が目立つ。

■ 4-1. (No.1-1 所属団体にて大学等を選択された方のみ) VC/CVCとの連携について期待していることを選択ください。

回答区分	現地参加 (件)	オンライン (件)	(来場者) 回答者35人中	(オンライン) 回答者55人中	全回答者 90人中
VC/CVCとのマッチング・情報交換機会を含む回答	21	41	60.0%	74.5%	68.9%
シード/アーリーフェーズからの連携・伴走を含む回答	18	26	51.4%	47.3%	48.9%
シーズの発掘・育成を含む回答	5	12	14.3%	21.8%	18.9%
資金調達を含む回答	4	24	11.4%	43.6%	31.1%
経営体制・事業運営体制の構築支援を含む回答	11	20	31.4%	36.4%	34.4%
学生/教員へのメンタリング・アクセラレーションを含む回答	17	19	48.6%	34.5%	40.0%
顧客/取引先の紹介・開拓を含む回答	8	18	22.9%	32.7%	28.9%

■ VC/CVCとの連携において具体的に期待していること（抜粋）自由回答ではシーズの発掘への要望が多い

カテゴリー	回答内容
学生/教員へのメンタリング・アクセラレーション	教員へのメンタリングによりスタートアップが難しくないことという理解を広めてほしい。
シーズの発掘・育成	学内での社会実装に向けたシーズ発掘に苦慮していることもあり、主にCVCと連携し、発掘し育てていくような仕組みがあると良いと思います。
シーズの発掘・育成	学内での社会実装に向けたシーズ発掘に苦慮していることもあり、主にCVCと連携し、発掘し育てていくような仕組みがあると良いと思います。
シーズの発掘・育成	本学では地域特性を活かすシーズが相当あると思うが、それを発掘・育成する目利きというか気づきができていないように感じているので個人的な意見であるがシーズの発掘・育成に期待する。
シード/アーリーフェーズからの連携・伴走	ディープテックの技術や市場価値についての知見をもって評価をしてくれるのと同時に、社会実装のアイデアや常にその先の企業との繋がりまで相談できること。

3-④ . アンケート結果

4-3. (VC/CVC向け) 大学等と連携する上で重要視していること

VC/CVCが大学等に対して技術・開発レベルおよび質を担保した技術・市場性に関する内容であった。その裏付けで人材スキルや論文・特許等の実績も重視している。投資側とすると市場性が高く競争力のある技術を求めているという事が以下の結果でわかる。

■ 4-3. (No.1-1 所属団体にてVC・CVCを選択された方のみ) 大学等と連携する上で重要視していることを選択ください。

回答区分	現地参加 (件)	オンライン (件)	(来場者) 回答者25人中	(オンライン) 回答者14人中	全回答者 39人中
技術・事業の市場性を含む回答	12	11	48.0%	78.6%	59.0%
技術・開発レベル及び質を含む回答	19	11	76.0%	78.6%	76.9%
ミッション・ビジョンへの共感を含む回答	6	3	24.0%	21.4%	23.1%
人材/スキルレベルを含む回答	8	7	32.0%	50.0%	38.5%
論文・特許等の実績を含む回答	6	6	24.0%	42.9%	30.8%
その他(技術の領域での優位性と適用領域の拡張性)	1	0	4.0%	0.0%	2.6%

■ VC/CVCとの連携において具体的に期待していること(抜粋)

カテゴリー	回答内容
技術・開発レベル及び質, 人材/スキルレベル	中長期的な展望を含めた、顧客ニーズ(導入への意思決定プロセス)の理解
技術・開発レベル及び質, 論文・特許等の実績, 技術・事業の市場性	世界トップクラスの技術か。それが特許で守れているか。
技術・事業の市場性	開発可能性/工業生産性の確度
技術・開発レベル及び質, 論文・特許等の実績, 技術・事業の市場性	大学発の場合は技術の質とそれの裏付け及びその市場性を重視している。
技術・事業の市場性, 人材/スキルレベル	いかにBDができる人材を連れてこれるかが大事

3-④ . アンケート結果

5-1. 大学等を中心としたスタートアップ・エコシステムの形成、大学等発スタートアップの創出における課題として日頃より感じておられること

「経営体制/経営人材の不足」「学内の起業支援人材やメンターの不足」等の人材不足は回答者の80%以上が選択し課題となっている。また、「学生/教員のマインドセット・スキル不足」を選択した回答も多くみられた。

■ 5-1. 大学等を中心としたスタートアップ・エコシステムの形成、大学等発スタートアップの創出における課題として日頃より感じておられることを選択ください

回答区分	現地参加 (件)	オンライン (件)	(来場者) 回答者76人中	(オンライン) 回答者82人中	全回答者 158人中
経営体制/経営人材の不足を含む回答	53	57	69.7%	69.5%	69.6%
資金調達を含む回答	17	28	22.4%	34.1%	28.5%
ギャップファンド等の創業前資金不足を含む回答	12	25	15.8%	30.5%	23.4%
大学等の規定整備を含む回答	17	18	22.4%	22.0%	22.2%
学生/教員のマインドセット・スキル不足を含む回答	36	48	47.4%	58.5%	53.2%
地域/エリアにおける制約・制限を含む回答	7	13	9.2%	15.9%	12.7%
研究シーズの情報不足を含む回答	9	15	11.8%	18.3%	15.2%
企業や地場産業との連携を含む回答	13	26	17.1%	31.7%	24.7%
学内の起業支援人材やメンター不足を含む回答	24	40	31.6%	48.8%	40.5%
その他(体制の整備)(スモールビジネスへの参入)	1	1	1.3%	1.2%	1.3%

■ スタートアップの抄出における課題として具体的に感じていること(抜粋)

カテゴリ	回答内容
学生/教員のマインドセット・スキル不足, 企業や地場産業との連携, 学内の起業支援人材やメンターの不足	専門の事務部が存在しない。スタートアップ推進を大学として公言しながら、専門のスタートアップ支援部門が存在しない。研究協力部の一部職員が兼務でスタートアップ業務に関与している。専門の事務部が存在しないと施策の実行・運営をしていく人材がいない。
学内の起業支援人材やメンターの不足, 起業後に商業化を推進する支援者の量的・質的不足	現状、大学発の場合スタートアップ立上(起業)までは手厚いが、その後、事業として成立するまでの支援が不足していると感じている。特にこのフェーズの支援者へのインセンティブが薄く、創業後VCが付くまでの活動が停滞するケースも多いと感じている。
経営体制/経営人材の不足, 学生/教員のマインドセット・スキル不足, 地域/エリアにおける制約・制限	あまりに気運が盛り上がりすぎ、栃木は首都圏に近く、元気のある人は首都圏にすぐ行けて、また、首都圏以外の国立大学の学生はまだ、大学に行ってそこそこ勉強して、良い企業に入れば成功みたいな意識があると思います。これには親の影響もありますし、大学としてもそういう売り方をしている気がします。県では産業観光労働部がSUの取り組みをしておられますが、初等中等教育もつついてもらい、もっと早い段階からアントレ教育を推進し、子どものころから「起業」に抵抗を持たない教育を施してほしいと思っています。
ギャップファンド等の創業前資金不足, 研究シーズの情報不足	大学内でなかなか連携が進まない。プロマネできる人材が不足している。そこが狙い目になるとも感じます。
経営体制/経営人材の不足, 学生/教員のマインドセット・スキル不足, 地域/エリアにおける制約・制限, 学内の起業支援人材やメンターの不足	事業化することがアカデミックなキャリアにとってプラスになりづらく、時間だけ取られやすいと想定すると、アカデミックなキャリアと両立しやすい評価仕組み作りが必要

3-④ . アンケート結果

5-3. 日本の大学等発スタートアップがグローバル展開をする上での課題として日頃より感じておられること

スタートアップ・エコシステム形成を推進する上での課題としての経営人材の不足と同様、グローバル展開を行う上でも「グローバル人材の確保・組織づくり」は大きな課題であることが明確となった。大学関係者等は日頃より、大学教員、生徒と対峙することから、マインドセット・スキルの不足に課題を抱えていることが伺える。

■ 5-3. 日本の大学等発スタートアップがグローバル展開をする上での課題として日頃より感じておられることを選択ください。

回答区分	現地参加 (件)	オンライン (件)	(来場者) 回答者71人中	(オンライン) 回答者82人中	全回答者 153人中
グローバル市場を見据えた組織づくり・人材確保を含む回答	50	62	70.4%	75.6%	73.2%
学生/教員のマインドセット・スキル不足を含む回答	29	33	40.8%	40.2%	40.5%
グローバル市場での先行者や成功事例の不足を含む回答	14	34	19.7%	41.5%	31.4%
海外とのネットワークの不足を含む回答	34	44	47.9%	53.7%	51.0%
特許等の知財に関する課題を含む回答	13	30	18.3%	36.6%	28.1%
資金調達を含む回答	17	21	23.9%	25.6%	24.8%
海外とのレギュレーションの差を含む回答	12	0	16.9%	0.0%	7.8%
その他（バイオテックにおけるリスク低減のための実験の必要性が理解されないこと）	1	1	1.4%	1.2%	1.3%

■ グローバル展開をする上での課題として具体的に考えていること（抜粋）

カテゴリー	回答内容
グローバル市場を見据えた組織づくり・人材確保、海外とのネットワークの不足、グローバル市場での先行者や成功事例の不足	海外アクセラレータ・インキュベータとの繋がり強化
グローバル市場を見据えた組織づくり・人材確保、学生/教員のマインドセット・スキル不足	学内共働員の知識の不足、それを補うような人員雇用ができていない。
グローバル市場を見据えた組織づくり・人材確保、学生/教員のマインドセット・スキル不足、海外とのネットワークの不足、グローバル市場での先行者や成功事例の不足	全般的にスピード感に欠ける。一方で技術に関する安全保障の意識が必要ではないか（でないと最終的に日本がお隣国として海外にすべて持っていられる可能性あり）
グローバル市場を見据えた組織づくり・人材確保、学生/教員のマインドセット・スキル不足	研究として海外で評価されることと、起業して評価されることは別であるという前提の浸透
グローバル市場を見据えた組織づくり・人材確保	最初からグローバル展開を前提としたビジネスを考えられる人材

3-④ . アンケート結果

6-1. 国に期待する具体的な支援策や要望 No.1

国に対する支援策や要望を記述式にて回答を取得。下記の通り様々な回答を得られたが、経営者人材および起業支援人材への要望と起業後も継続した支援を希望する記載が散見される。

回答者属性	回答内容
URA	起業支援人材、伴走支援、目利き人材、コーチング人材の育成充実
URA	義務教育を含む、教育システム改革、教育者自身が起業やアントレ教育を受けていない。
URA	大学に本当にSU事情に詳しい人間が入ってこれるような施策
URA	地方大学へカネが流れているように見えるが、起業「後」のカネとしては使えない。（文科省だから、大学？）起業「後」の支援体制も整えてほしい。
URA	継続的な支援
URA	大学発スタートアップが継続的に創出されるよう、スタートアップに繋がるシーズ育成への支援も手厚くしていただけるとありがたいです。
URA	支援者人材の育成、経営者バンクの設置
URA	人文社会系の研究成果やソーシャルインパクトのあるスモールビジネスへの支援策
URA	研究者の起業精神を助長するような教育
URA	今後とも有益な情報提供をよろしくお願いします。
URA	起業後の支援について
URA	研究者目線に立ったスタートアップへの意識変革やアカデミックな成果以外に対する研究者評価指標の構築などに関する支援

3-④ . アンケート結果

6-1. 国に期待する具体的な支援策や要望 No.2

回答者属性	回答内容
URA	支援人材育成の充実を期待したい。
URA	SU起業に必要なSU経営人材支援
URA	国にはアカデミア事業と一緒に育てる覚悟とそのための方策を期待したい。SU企業への仕事の発注や、事業化を目指す人への生活基盤を整えるための給与支給など、現行では出来ないが、"必要とされている"支援を願いたい。
URA	地方大学・非国立大学への財政支援や基盤整備
URA	本気で、スタートアップで国を建て直すなら、もっともっと、具体的な支援を進めていき、官民一体となっていく必要があると感じる。もうそこしか、道はないと思うので、大学発とか関係なく、日本中の人にハッパをかけられるような、戦略を作っていくほしい。
URA	伴走等による具体的な支援
URA	数年後、国は現在と同じように大学発スタートアップを支援してほしい（国の政策は数年ごとに変わるので、その点が心配である。）。
URA	様々な予算措置に感謝。現状の課題を調べ、必要な部分にさらに拡充願いたい。
URA	主要研究大学以外でも支援いただける体制が有難い。スタートアップ支援とともに基盤となる知財支援も並行していただけると有難い
URA	地方でのスタートアップ等における課題解決支援
URA, その他（スタートアップ等含む）	脱米国の独自戦略の追求（欧州、アジア等の米国外のケーススタディ分析） 大企業との関りを国主導で進めること。
URA, 事務職員	留学制度と関連付けた学生支援策の創出など

3-④ . アンケート結果

6-1. 国に期待する具体的な支援策や要望 No.3

回答者属性	回答内容
VC・CVC【JVCA会員】	大学の先生や支援人材のマインドを変えていく必要があると思います。
VC・CVC【JVCA会員】	スタートアップが起業後に商業化の伴走者を確保するための金銭的な支援を充実して頂きたい。現状では、商業化経験のある人材等へのフィーが払えず、商業化の伴走者を確保できていないように見ている。VCの支援もあるが、彼らのハンズオンでは商業化の伴走としては不足しており、商業化の伴走には専門家の支援が必要だと考えている。
VC・CVC【JVCA会員】	EXIT支援
VC・CVC【JVCA会員】	国が何をするかを悩むのではなく、国が何をやめるかを悩んでほしい。
VC・CVC【JVCA会員】	国内の研究開発（基礎含め）に対する、中長期的なヴィジョンでの支援で、研究者を支えてほしい。
VC・CVC【JVCA会員】	事業シーズ・大学発スタートアップの一覧化、ショーケース化
VC・CVC【JVCA会員】	ディープテックスタートアップが技術課題以外での課題（資金面、人材）に直面しないような支援
VC・CVC【JVCA会員】	選択と集中とは別に、10～20年後の長期的なシーズ育成のための研究助成の強化
VC/CVC【JVCA会員以外】	「5-4」（PCT出願以降の予算不足）に対応するために、地方大学に特許予算を割り当ててほしい。
VC/CVC【JVCA会員以外】	NEDOのような補助金は大変心強いサポートだと感じております。
VC/CVC【JVCA会員以外】	起業を検討している大学院生向けの給付奨学金の充実
VC/CVC【JVCA会員以外】	支援人材育成の場の提供
VC/CVC【JVCA会員以外】	大学スタートアップ創出のための継続的な資金支援

3-④ . アンケート結果

6-1. 国に期待する具体的な支援策や要望 No.3

回答者属性	回答内容
その他（スタートアップ等含む）	細くてもよいので、現在の5年間の支援事業の継続
その他（スタートアップ等含む）	マインド醸成プロジェクト
その他（スタートアップ等含む）	後発組の大学では先発組大学と同じ目標設定が科されるものの、その前提となる体制や取り組みを行なっていないという学内外の土壌が整っていない中、一足飛びに、短期で成果を出しに行くことが課題と感じています。地域PFに所属しながらも各大学の実態に則した取り組みを後押ししていくパッケージ(お金の色にグラデーションをつける)があるのが理想です。
その他（スタートアップ等含む）	地方大学にも支援をお願いしたい
その他（スタートアップ等含む）	大学レベルの支援強化
その他（スタートアップ等含む）	より積極的にグリップして頂きたい
その他（スタートアップ等含む）	研究者（教員）に対するアントレ教育を行う費用を提供いただきたい。
その他（スタートアップ等含む）	税制の優遇策など、現状の制度の情報を一元化して欲しい。
その他（スタートアップ等含む）	アントレプレナーシップ教育にも資金支援を継続して欲しい。
その他（スタートアップ等含む）	スタートアップ起業候補者とVC等とのマッチングをバックアップするような支援策に期待します。
その他（スタートアップ等含む）	書類の山ではない、VC・企業が興味を持つための研究データ取得に使える資金の提供、企業からの積極的なサポート（資金のみならず事業面へのサポート）
その他（スタートアップ等含む）	研究資金、スタートアップ資金の拡充
その他（スタートアップ等含む）	AMED、ギャップファンドなど起業前後の資金面での支援

3-④ . アンケート結果

6-1. 国に期待する具体的な支援策や要望 No.3

回答者属性	回答内容
その他（スタートアップ等含む）	大学における技術契約や株式等資金繰り、手当等に関する規制緩和、柔軟施策導入、および国防上重要技術の流出に関する注意喚起ないし規制の枠組み
その他（スタートアップ等含む）	シード期スタートアップへの重点支援/金融機関との連携
その他（スタートアップ等含む）	引き続きSUへのご支援をどうぞよろしくお願い致します。
その他（スタートアップ等含む）	（5万人のエンジニアの学生）高専にもアントレプレナー分野プラットフォーム構築をお願いします。
その他（スタートアップ等含む）	起業支援人材、およびアントレプレナーシップ教育（学生のみではなく教員/職員にも）の外からの配〇を促すための予算をつけてほしい。
事業会社【JVCA賛助会員含む】	制約の少ない予算執行システム、そのための特区化が必要
事業会社【JVCA賛助会員含む】	measures to enhance the fluid/flexible movement of talent across disciplines
事業会社【JVCA賛助会員含む】	スピード感
事務職員	スタートアップ支援を展開する大学への補助金、助成金の拡充
事務職員	スモールビジネスに挑戦する学生を応援するための施策が欲しいと考えます。現状では、二番煎じのスモールビジネスでは出資どころか融資すらも期待できないため。
事務職員	スタートアップ企業が起業後、VC等の支援を経て成長するが、その後の出口戦略を指南してくれる専門人材が必要と感じている。例えば、上場だけが全てではないと思うので、企業価値を高めてM&Aを提案したり等、スタートアップ企業の将来を見据えた際の最適な方針を相談できる人材が存在すれば良いと思う。
事務職員	各大学において、弁理士や知財に詳しい弁護士を持続的に配置・雇用等ができる支援策を期待する。

3-④ . アンケート結果

6-1. 国に期待する具体的な支援策や要望 No.3

回答者属性	回答内容
事務職員	メンターの確保・育成・アサインと伴走支援体制の強化
事務職員	国内大学間の成功事例、ノウハウの共有、海外展開時のリソースの共同活用等への支援（対象アクターの継続、発展に向けたサポート）。国外に向けては、国としての強みの発信や協力のための国家間の枠組み構築等で支援があれば、日本発の取り組みが広く世界でも知られ、個別プロジェクトの発展にもつながるのではないかと思います
事務職員	法令等の柔軟な適用（規制緩和）
投資家・金融機関【JVCA会員以外】	しっかり国家の利益を見据えて支援対策を考えてほしい

3-⑤. 大学等発スタートアップ創出／地域間の連携とグローバル展開事例

大学等発スタートアップ創出、スタートアップ・エコシステム形成において、本シンポジウム後の多くの参加者がアンケートに回答した経営者候補人材・起業支援人材の確保。大学間での連携。研究シーズの情報共有などの課題解決に向けた大きな取組としてWG0～WG3の活動事例が共有された。

全国ネットワーク構築支援 スタートアップ・エコシステム共創プログラム		
WG0	戦略会議運営・KPI管理	4つのWGの連携を図り見える化を実現し各プラットフォームを横断するブランドコンテンツを作成政府機関等との連携しSUの成長促進
WG1	海外拠点の高度活用	全国9プラットフォームが共通して利用できる海外拠点の創出。 アウトバウンド支援・インバウンド投資の促進
WG2	研究シーズの情報共有環境整備	データベース整備とマッチングの仕組みを構築。全国に存在する研究シーズ情報を整備
WG3	経営者候補人材の情報共有環境整備	経営者候補人材・事業化支援人材情報に関するデータベースを整備し 研究シーズ情報と合わせワンストップ窓口を構築
	事業化支援人材情報共有・ワンストップ窓口機能構築	
WG4	コミュニティ形成	地域コミュニティを形成

大学等発スタートアップ創出のプラットフォームネットワーク

3-⑤ . 大学等発スタートアップ創出／地域間の連携とグローバル展開事例

グローバル展開では国内での商習慣や資金調達方法と違う、それぞれの国の独自性があり、そのことがスタートアップ企業の海外展開の障害となっている。海外進出を成功させた企業から共有された課題とスタートアップ・エコシステム共創プログラムの取組が課題解決策とした場合を下記に整理した。

